

なぜ、武士はあんなにもカッコいい死に方を するのだろうか・・・？

はじめまして。古閑みのりです。

このお手紙では、私が、お茶や歴史のコミュニティを作り、
日本人的な生き方を広めていく活動をするに至った、
物語を書かせていただきます。

もし、日本のことをもっと知りたい、あるいは、
何かコミュニティを作っている、これから作っていきたいという場合は、
参考になる部分もあると思いますので、ぜひ読んで頂けますと嬉しいです。

私は、子供の頃から、ちょっと変わった子でした。

多くの子供たちは、少年ジャンプのヒーローや、ディズニーのお姫様に憧れます。
しかし、私は子供の頃、武士に憧れていたのです。

「女なのになんで武士?!」
と思われるかもしれません。

でも、私はずっと、なぜか「武士になりたい!」と思っていたのです。
それが何を意味するのか?は、その時は分かりませんでした。
ただ、漠然と、カッコいいな、と感じていたのです。

私が特に好きだったのは、彼らの「死に様」でした。

武士たちは、死ぬことに一切の躊躇がありません。
中には、自ら腹を切って死ぬ人たちもいます。

彼らは決して、死ぬことが一切怖くなかったというわけではないでしょう。
しかし、自分の命よりも大事な何かが、きっとあったのです。

それは一体何なんだろう・・・？

そう考えながら、幼少期を過ごしていました。
だから、私は、歴史の本だったり、大河ドラマが好きでした。

また、漫画「北斗の拳」のラオウが好きでした。
主人公だろうと、敵だろうと、
その人の中に「真・善・美」があり、
それを最後まで貫いて死んでいくキャラは

皆カッコいいなって思っていました。

逆に、シンデレラのような「夢見るお姫様」は嫌いでした。
(もしシンデレラが好きだったらごめんなさい！)
何の努力もせず、シクシク泣いていたら王子様に助けてもらえるなんて、
現実世界でそんなことほとんどありません。

それよりも、自分の信念を持って、
美しく散っていくキャラクターが好きだったのです。

だから、変な女の子だなと、周りに思われていたでしょう。
私自身も、どうしてここまで「死に様」にこだわっているのか、
その時は分かりませんでした。

しかし、これが後に、重大な意味を持っていたことが分かります。

人は、死んだらどこに行くのだろうか？

私が「死に様」と同じくらい興味を持っていたのが、「あの世」についてでした。
いや、この両者は、私の中では同じでした。

武士が、死ぬことに迷いが無いのはどうしてだろう？
きっと「死後の世界」について、
現代の私たちには無い価値観を持っているからなのではないか？

そう考えるようになった私は、あの世について色々調べるようになりました。

死んだら、天国、地獄に行くというキリスト教やイスラム教、
あるいは輪廻転成して生まれ変わるといふ仏教、
様々な思想を学んでいました。

そして、私が「どうしても知りたい」と思っているものの答えを、
きっと武士たちが知っているのではないかと考え、
将来、日本の歴史を感じられるような仕事をしたい！と思っていました。

現代で武士を体現する

武士が好き、もっと日本の歴史や、文化に触れたいと思っていた私は、
「いつか京都に行きたい！」とずっと思っていたのです。

京都には、お寺だったり、日本の歴史を感じられる建造物が沢山あります。

京都に行けば、私が求めているものが見つかるんじゃないかと、
ずっと考えていました。

そこで私は、まず着物屋で働くことにしました。

今の時代、武士として生きることはできません。
そうだとっても、少しでも、武士の時代を感じたい、
何らかの形で現代において武士を体現したい、と欲っていたのです。

だから、着物屋で働いたら、何か見えてくるものがあるんじゃないか？
と期待に胸を膨らませていました。

しかし、そこで待っていたのは、悲しい現実でした。

その着物屋では、毎日ノルマが与えられ、
ちょっとでも歴史や日本文化の話をしようものなら、
「そんなこと言う暇があったら、さっさと売上げを伸ばすこと考えろ！」
と怒られる日々を送ります。

そんな毎日を送るにつれて、日に日に、
「どうすればもっと売上げを伸ばせるだろう？」
ということばかり考えるようになっていました。

また、場合によっては、
借金をさせてでも買わせるようにと言われる時もありました。

着物を買ってくれるお客さんも、
ただストレス発散のために買っているのがほとんどで、
そこには、全く武士の生き方なんてものはありませんでした。

いつしか、

「この現在社会において、武士を体現することなんてできないんじゃないか・・・
武士や侍というものは、やはり過去の産物なんじゃないか・・・」

と欲ってしまうようになりました。

「神道」に興味を持つ

その後、私は、「石屋」で働くようになりました。
いわゆる「パワーストーン（水晶）」のお店です。

水晶というのは、もともと「ご神体」と言われています。

武家の家訓にも、「毎朝神仏に手を合わせて1日を始めなさい」と書かれている通り、武士は、神道に何かしら関係があるのではないかと私は考えました。

そこで、神道についてもっと知りたいと思った私は、福岡での石屋で働き、神道について色々調べるようになりました。

ノルマばかり押し付けられる着物屋で働いていた時よりは、まだ精神的に楽になりましたが、それでも、私が求めているものは見つかりませんでした。

武士の生き方については、結局分からないまま、だけど「真実に近づきたい」とずっと思っていました。

そんな私に、ある転機が訪れます。

運命を変えた出会い

当時、私が働いていた石屋は、全国に店舗を広げようとしていたのですが、ある日、店長から、「大阪の楠葉に店舗を出すから、そこで働いてみないか？」と言われました。

これは私にとって、願ってもないことでした。楠葉は、大阪の街ですが、ずっと行きたいと思っていた京都のすぐ近くで、きっとここに行けば、私が求めているものに近づけるんじゃないかと、そんな気がしていたのです。

そして、楠葉のお店で働くようになった私は、人生を変えた「**運命の出会い**」を経験します。

私は、働いていたお店の近くにある、お茶屋さんによく通っていたのですが、そのお店の人と仲良くなり、私が神道について色々調べているという話をすると、「それだったら、ぜひ会って欲しい人がいる」と言われて、とある方を紹介されました。

それが、後に私の先生となる、北極老人です。

私は、はじめて北極老人と喋った時、衝撃を受けました。私がずっと求めていた「あの世の話」「死ぬことに対する考え方」を1日かけて話してくれたのです。

その日、私の「死生観」はガラリと変わりました。

私は、先生から、「死後の世界は、今が全て決めている」という話を聞きました。

なぜ、死んだ後に天国に行くのか？
それは、今の心が、天国的だから。

なぜ、死んだ後に地獄に行くのか？
それは、今の心が、地獄的だから。

今の心の境地が、そのまま死んだ後の境地であり、
今、幸せな人が、死んだ後に地獄に行くことはない、
という話をさせていただきました。

それを言われた瞬間、私の中で、長年バラバラになっていたものが、
1つに繋がったのです。

私の中では、ずっと、
「今」と「死んだ後」が分離していたのです。

今を見ず、死んだ後のことばかり考えていたから、
「今この瞬間」を直視できないでいました。

しかし、武士たちは、そうではなかったのです。

彼らはなぜ、死ぬことから逃げないのか？
きっと、一切悔いのない人生を送っていたからなのです。

たとえ10秒後に死んだとしても、後悔はない。
そう思える生き方をずっとしていたから、
いつ死ぬと分かっても、その運命を受け入れられたのです。

私がずっと武士に対して持っていた憧れは、
「死に様」に象徴されていただけで、
実は、それは「生き様」とイコールだったのです。

それが分かった瞬間、私は、
「武士道を、現代において体現することは可能なんだ」
と悟ったのです。

女でも武士になれる

武士道は、武士だけのものではない。
刀がなくとも、あるいは、女性でも子供でも、武士になれるんだ。

武士としての生き方をすれば良いんだ。

自分が子供の頃から抱いていた夢が打ち砕かれ、
ずっと暗闇の中にいた私の心に、
その瞬間、まばゆい光が差し込んできたような気がしました。

先生から話を聞いたその日から、私は、あるルールを作りました。

それが、
「今日の夜、自分は死ぬ（一日一生）」
というものです。

たとえその日に死んでも、不成仏霊にならない生き方をする。
毎月、神社参りをした時に、そう「宣言」をしました。

その後、私は、そのお茶屋さんに頻繁に通うようになりました。
先生に会って、もっと話を聞きたいと思ったからです。

私は先生から、

- ・これから世界はどうなっていくのか？
- ・宗教や神社の秘密
- ・受験時代に全国模試で全教科1位を取った勉強法
- ・9つの流派から占いを継承し、極めた話

など、様々な話をしてもらいました。

話を聞くうちに、「もっと知りたい！」という思いが募り、
弟子入りさせてもらうことになりました。

当時、先生のもとで学んでいた弟子たちが、
「ゆにわ」というお店を作っていました。

実は、先生は料理の達人でもあり、
先生から料理を教わった人たちが、
飲食店を作っていたのです。
(後に、映画にもなっています。)

私は、その手伝いをしつつ、
先生の秘書として働かせてもらえることになりました。

そして、秘書として先生と行動を共にしながら、
その道中で色々な話をしてもらいました。

先生にしてもらう話は、私が何十年も生きていき、
聞いたことのないような話ばかりです。

1度話を聞くたびに、
私のこれまでの価値観はガラガラと崩れ、

新しく生まれ変わったかのような気分になります。

武士になれず、ずっと暗闇を彷徨っていた時期が嘘のように、毎日が楽しくて、そして濃密な日々を送っていました。

先生から聞く話の全てが、
「私がずっと求めていた生き方」
そのものだったのです。

そんなある日、私は、
「ゆにわでお茶屋さんを作ろうと思うんだけど、
その店長をやってみないか？」
という話を頂いたのです。

これは、私からしたら、願ってもないことでした。

だって、歴史上の武将たちは、皆、お茶をやっています。

きっとお茶に、武士の秘密が隠されているに違いない！

そう思った私は、すぐさま、
「ぜひ、やらせて下さい！」
と言いました。

こうして私は、茶肆ゆにわの店長になったのです。

茶肆ゆにわで働く

茶肆で働くようになった私は、
「自分が淹れたお茶は、その時の自分の心の状態によって、味が変わる」
ということを知りました。

自分の生き様が、そのままお茶にうつるのです。

言葉ではなんとなく知っていたことではありましたが、
実際に淹れてみて、はじめて実感したのです。

だから、心にゴミを溜めるような生き方をしていたら、
それはお茶にもうつり、不味いお茶になってしまうし、
逆に、いつ死んでも悔いのない生き方をして淹れたお茶は、
迷いのない、澄みきった味になります。

そして、人生で迷っている人がお店に来た時、
自分が一切の迷いのないお茶を淹れることができれば、

それを飲んだだけで、スーッと迷いが消えていくのです。

だから、武士達が、お茶をやっていたのか！
と改めて分かりました。

長い間、「死んだ後」と「今」が切り離されていた私は、
先生と出会い、今この瞬間が大事なんだということを教えていただき、
実際に茶肆で働くようになって、本当に武士としての生き方が体現できていると、
実感できるようになりました。

私は、心の底から、幸せと思ったのです。

同時に、もっとこの生き方を、
お茶を通して多くの人たちに伝えようと思うようになりました。

そこで、茶肆に来る人たちに、
自分が先生から教わったことを、伝えるようになったのです。

すると、「もっと話が聞きたい！」と言って、
連日、色んな人が足を運んでくれるようになりました。

そんな時、1人の、私の人生を大きく変える出会いがありました。

菅井という男

それは、茶肆ゆにわによく通ってくれていた、
菅井という男性です。

当時、ゆにわで経営者向けの勉強会がよく開催されていて、
その辺りから、経営者の方がよく茶肆にお茶を飲みに来るようになりました。

菅井も、そのうちの1人です。

経営者と言っても、菅井はちょっと変わったやつでした。

どんな仕事をしているのか？と聞いたら、
「ONEPIECEのサイトを作って、収益化している」
と言うのです。

漫画「ONEPIECE」について解説するサイトを作り、
そこに集まった人に、関連グッズを売る広告を貼って収益化する、
という珍しい働き方をしていました。

つまり、誰とも一切関わることなく仕事をしていて、
人生の目的とか、そういうものも全くなく、

ただ漠然と日々を生きていました。

でも、

「このままでいいのだろうか」
とどこかで思っていて、茶肆に来ることで、
求めているものがきっと見つかるんじゃないかと
どこかで感じていたんじゃないかと思います。

ずっと通ってくれているうちに、ある日、彼が、
「自分もお茶を淹れてみたい」
と言うので、その場で淹れてみてもらって、飲んでみることにしました。

すると、驚くことに、**無味無臭だった**のです。

お茶は、その人の心の境地がそのままウツります。

何の軸も、人生の目的もなく、流されるまま生きてきた彼の生き方が、
「無味無臭」という形で、お茶に表れていたのです。

それを知った彼は、もっと生き方を変えていきたいと、強く思うようになりました。
そこで、修行として、茶肆で、彼に助手をやってもらうことにしたのです。

「自分の分身を作りなさい」

当時、私は先生に、菅井を育てていきたいということを伝えた時に、
「自分の分身を作りなさい」
と言われました。

だから私は、明日死んでも悔いがないように、
今私が伝えられる全てを、この人に伝えよう、と思いました。

一切隠すことなく、知っていることを全て伝えたいし、
時にはかなり厳しいことも言いました。

それでも、彼は真剣に学んでくれて、
淹れるお茶も、どんどん美味しくなりました。

ある日、彼が淹れたお茶が、あまりに美味しくて、
「あれほど、無味無臭のお茶しか淹れられなかった菅井が、
こんなに美味しいお茶を淹れられるようになったなんて・・・」
と感動したこともあります。

ようやく、私がいなくても、お店を任せられる状態ができた、
そう思っていたある日、私の人生で、印象に残ったベスト3に入る、
ある大事件が起こります。

菅井失踪事件

ある日、突然、菅井が茶肆に来なくなりました。
しかも、その日は大事なイベントの日だったのです。

音信不通になり、家に行っても音沙汰なく、
その日から消息が分からないでいました。

それから毎晩、街のあちこちを、ゆにわの人たち全員で、搜索し続けました。

しかし、いつまで経っても、菅井は見つかりませんでした。

私は、菅井に、伝えられることは全て伝えてきたし、
一切の後悔がない生き方をしていたつもりでした。

だから、たとえ、このまま一生会えないとしても、
その運命を受け入れる覚悟はありました。

しかし、気持ちは追いついていなかったかもしれません。
何か、もっとできることがあったんじゃないか、とどこかで思っていました。

そして、いつでも安心して帰って来れるよう、
彼の居場所を用意して、待ち続けていました。

それから2週間後、彼は帰ってきました。

後に彼から聞いた話だと、どうやら東京に行って、
スパで寝泊まりしていたのだそうです。

ある日、スパで寝ていたら、
たまたま横にいたおじいちゃんが、
「皆待ってるよ。そろそろ帰ったら？」
と耳元で行ってきたのだそうです。

そのおじいちゃんは、違う人に言ったようですが、
それはまるで自分に言われたかのようだった、と彼は言います。

そして、さらに決定的だったのが、

彼が仕事にしていた、ONEPIECE でした。

ちょうど、その日に彼が買った ONEPIECE の漫画で、
一味から一度抜けたサンジが仲間のもとに戻ってきて、
「サンジが帰ってきた！」
と皆が喜んでいるシーンだったのです。

しかも、次のページをめくって、彼は驚きました。

「よし、これから、(ビッグマムの)お茶会に乗り込むぞ!!!」

と言っていたのです。

それを見て、彼は、
「まるで、茶肆に戻って来いと、神様に言われているような気がした」
と言います。

帰って来て、彼は、
「逃げるっていう一番ズルい方法を取ってしまいました。
もう二度とこんな卑怯なことはしません。」
と言って、皆の前で謝罪しました。

それ以来、彼は迷いが無くなり、茶肆の雰囲気ガラリと変わりました。
彼は、私がいなくても、私が茶肆で色んな人に話していたように、
皆に話してくれるようになりました。

それまで、お客さんのほとんどは「古閑さんから話を聞きたい」と来てくれていたのが、
「菅井さんの話が聞きたい」と言って来る人が現れ始めたのです。

私は、
「ようやく菅井に、茶肆を一人で任せられる」
と確信し、もっと活動の幅を広げていくことにしました。

武士としての関係性作り

私が、菅井との関係で、できていなかったなと思ったことがあります。

それが、
「自分と、彼を分離させてしまっていた」
ということです。

私は、先生から、
「自分の分身を作りなさい」
と言われてきました。

そして、分身を作ろうと、伝えられる限りの事を伝えてきたつもりでした。
しかし、私は、彼に対して、本当の意味での安心感を与えていませんでした。

先生は、私を、仲間として迎えてくれて、
皆の輪の中に入れて、家族のように接してくれました。

私も、菅井を輪の中に入れてたつもりでいましたが、
何かあった時に、2人の間だけで解決しようとして、
最終的には菅井が我慢して、言いたいことを言えなくなり、
それが積もり積もって、失踪させるという結果になってしまいました。

武士というのは、横のつながりを大事にします。

新しい仲間を、自分の輪の中に入れて、
お互い腹を割って話せる関係性を作ります。

しかし、私は菅井に対して、
「これを言って、この人がいなくなったらどうしよう。」
という気持ちがどこかでありました。

だから、変にオブラートに包んで、腹を割って話せていませんでした。

それを痛感した私は、菅井を、皆の輪の中に彼を入れて、
何かあったら皆で解決するようにして、
本当の意味で、腹を割って話すようにしました。

そこから、彼はどんどん変わっていきました。

かつて、私が茶肆で先生に聞いた話を多くの人に話していたように、
いつの間にか、彼も、茶肆に立って、話すようになったのです。

ずっと、
「古閑さんの話が聞きたい」
と多くのお客さんが来ていたのに、
いつの間にか、菅井の話が聞きたくて来る人が出て来るようになりました。

彼が、本当の意味で、自分の分身となってくれたおかげで、
私の活動の幅は大きく広がりました。

そして私は、茶肆だけでなく、
もっと多くの人を巻き込んでいける、
コミュニティ作りをしようと考えました。

武士のコミュニティ作り

当時、私は、お茶を教えるコミュニティを作っていましたが、菅井との関係性をきっかけに、私は、自分の「コミュニティ作り」の考え方が大きく変わりました。

自分のパートナーというのは、最小単位のコミュニティであり、「雛形（ひながた）」です。

そこがうまくいっていないと、真の意味でのコミュニティなんて作れません。

「分身を作る」とは、能力、スキルは違ってても、自分と同じ方向を見ている人を作る、ということです。

その「たった1人」を作ることが、コミュニティ作りの第一歩です。

そして私は、菅井が帰って来たあの日から、コミュニティの人たち全員と、腹を割って話せる、武士としての生き方を体現するようなコミュニティを作ろうと思い、「歴史」を教えるセミナーを主催するようになりました。

日本人は、正しい歴史を教えられていません。

色んなプロパガンダが含まれた、誤った歴史を教えられ、それによって、海外に対して罪悪感を持つようになり、自分の軸を失ってしまうような教育を受けているのです。

だから、私は、本当の歴史を伝えて、日本人が、もっと誇りを持って、武士の精神を持てるような、そんなコミュニティを作ろうと思ったのです。

そして、私は北極老人から、「歴史を学ぶことの真の意味」を教わります。

歴史は日常と繋がっている

よく、「歴史は繰り返す」

と言われますが、歴史上の大きな出来事は、
形を変えて何度も起こっています。

そして、それは、自分の人生においても、
形を変えて必ず起こっています。

この考え方を「フラクタル(相似象)」と言います。

例えば、日常で、私が誰かと喧嘩をしたとします。
すると、その関係性は、必ず歴史上のどこかとリンクしていて、
同じ理由で、争いや戦争が起こっています。

その規模は違えど、同じ構造(=相似形)になっているわけです。

そう考えると、自分のこれまでの人生全てが、
歴史のどこかと対応していることになり、
世界史、日本史、自分史が、全て繋がってきます。

つまり、もし仮に、間違った教育によって、
偏った歴史の見方をして、罪悪感や、怒りなどの感情を持てば、
それは自分のこれまでの人生に対しても、同様に罪悪感や怒りを持つことになります。

だから、
「歴史を正しく知ることは、自分自身を知ることに繋がる」
のです。

そして、歴史と同じことが、
「今この瞬間」にも起こっています。

ただし、それはテーマ(関係性)が同じだけで、
例えば、歴史では、それが理由で戦争が起こり、滅んだとしても、
その結末まで同じにはなりません。

むしろ、私たちがすべきことは、
歴史において乗り越えられなかったテーマを乗り越えて、
新たな物語を作っていくことなのです。

このように、今、どんなテーマで、
それは歴史のどこと繋がっているのか？

さらに、その背景には、どんな神話があるのか？

そういった話を、私はいつも先生からしてもらっていました。

それからというもの、私は茶肆に立って色々なお客さんと話しながら、

「今日1日のテーマは何だろう？」
といつも考えるようになりました。

すると、毎日、歴史に対する認識が変わり、
日常で起こるあらゆることが学びとなります。

そんな、活きた歴史を教えながら、
コミュニティはどんどん大きくなっていきました。

神様からのご褒美

コミュニティで歴史を教える中で、
「もっと皆に歴史を深く知ってもらいたい！」
と思い、色んな講師の方をお迎えすることにしました。

ずっと歴史を研究してきた人たちや、
「日本の裏」を知っている人たちの話をお呼びして、
表では伝えられない情報を、話してもらったのです。

こんな風にしてコミュニティを運営していたある日、
私にとって、**最高のご褒美**がありました。

その日、とある講師の方をお呼びして、話してもらったのですが、
参加者全員が、「お迎えする側」として、
講師の方を迎えてくれたのです。

神道では、「神様をお迎えする」という儀式を行いますが、

まるで、全員で神様をお迎えするがごとく、
主催者、講師、生徒、という関係を超えて、
全員が、自分の理念を理解し、共感し、実行してくれた・・・。

この瞬間が、私はたまらなく嬉しかったのです。

まさに、武士の精神を、コミュニティ全員で体現できたと感じることができ、
これは「神様からのご褒美」だとすら思いました。

今まで、ずっと武士を求め、苦しみ続けて、
誰にも理解されない毎日を過ごしてきました。

しかし、先生と出会い、武士を現代に蘇らせることができることを知り、
歴史を通して、日本人の精神性を伝えていき、全員が1つになることができた。

この瞬間、私は、今までの人生全てに感謝することができたのです。

そして、同時に、
「新たなチャレンジをしたい」
と思うようになりました。

武士団を作りたい

2019年から、私は、
「コミュニティ作りを教える」
という活動をしていきたいと思っています。

戦国時代に、織田信長には、
1人1人が国をまとめ上げることができるほどの家臣たちがいました。

あんな風に、本当の意味で、武士の精神を持ち、
コミュニティを作れるような人たちを増やして、
誰が上、とか、どっちが下、とか、そんなことを気にすることなく、
コミュニティ同士が1つの理念に向かって、お互い協力し合い、
大きな武士団を結成する。

これが、私がこれからやりたいと思っていることです。

その時に、「正しい歴史」「正しい神話」を知ることも、重要になります。

学校で習うような、何の役に立つかわからない歴史ではなく、
日本人がアイデンティティを取り戻し、人生をリデザインするような、
そんな楽しい歴史を伝えていきます。

そして、**現代に蘇る武士たち**を増やしていきたいのです。

どんな仕事をしているかは関係ありません。
今、この瞬間に、どんな生き様ができるか？
今、どんなテーマがあって、どうやって乗り越えていけるのか？
それを、これからも多くの方と一緒に追求し、
ぜひ、一緒に、そんな生き方を広めていきましょう。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。
私のこれまでの人生が、誰かの希望になったら嬉しいなと思います。

古閑みのり